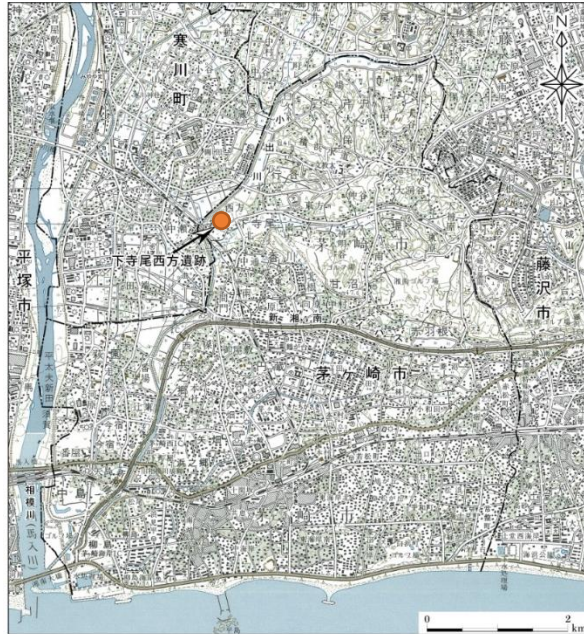
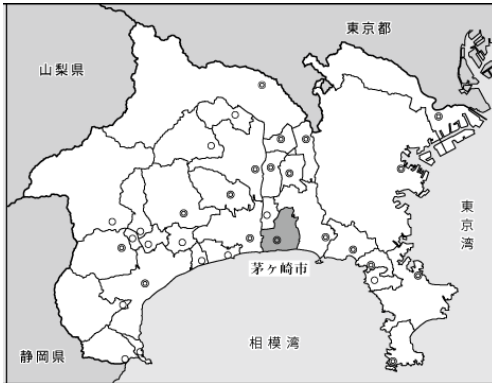


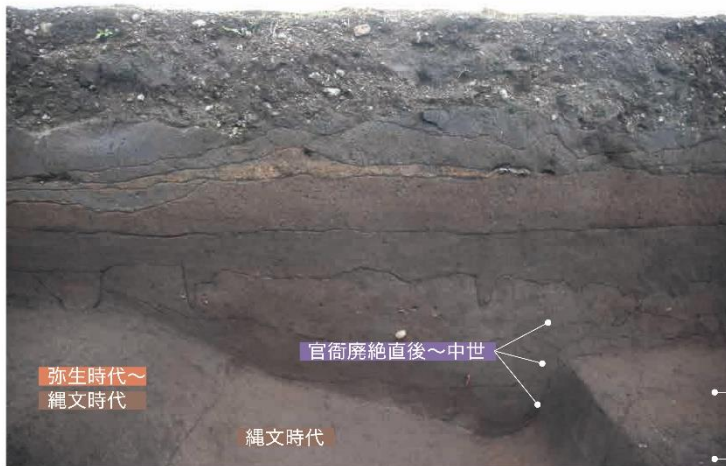
講演会「下寺尾の貝塚と茅ヶ崎の縄文時代」

下寺尾の遺跡について～縄文、弥生、奈良、平安時代を中心に～

茅ヶ崎市教育委員会 社会教育課 加藤大二郎



下寺尾西方遺跡の位置図



北陵高校解体時
北陵高校建築時
1707年富士山噴火以降
～北陵高校建築
中世～1707年
官衙廃絶直後
官衙関連建物廃絶
弥生時代～縄文時代

略年代	時代	時期	下寺尾西方遺跡
BC9000	縄文時代	草創	貝塚・集落
BC5000		早	
BC3500		前	
BC2500		中	
BC1300		後	
BC900	弥生時代	晩	下寺尾西方遺跡 環濠集落
BC700		前	
BC400		中	
BC300	古墳時代	後	集落 高座郡家
AD 50		前	
300		中	
400	奈良・平安時代	後	高座郡家
500		前	
710		中	
800	中世	後	高座郡家
900		前	
1000		中	
1100	近世	後	高座郡家
1200		前	
1600		中	
1900	近現代	後	北陵高校 防空壕
2000		前	

下寺尾西方遺跡略年表

県立北陵高校旧校舎地点（西方遺跡）の土の重なりを示す写真

◎下寺尾西方周辺に見つかった遺跡

- ・国指定史跡^{しもてらおかんがいせきぐん}下寺尾官衙遺跡群（奈良・平安時代）

古代の税を保管した正倉や役人が働いた建物等が見つかった高座郡家、仏教を広めた下寺尾廃寺（七堂伽藍跡）、交通の要所である船着き場、祭祀を行った場所などが下寺尾周辺でまとまって発見された。

- ・国指定史跡^{たかくらぐけ}下寺尾西方遺跡（弥生時代）

弥生時代中期の宮ノ台式期の環濠集落。南関東最大級の規模で、石器から鉄器へと移り変わる頃の様子を知ることができる遺跡。

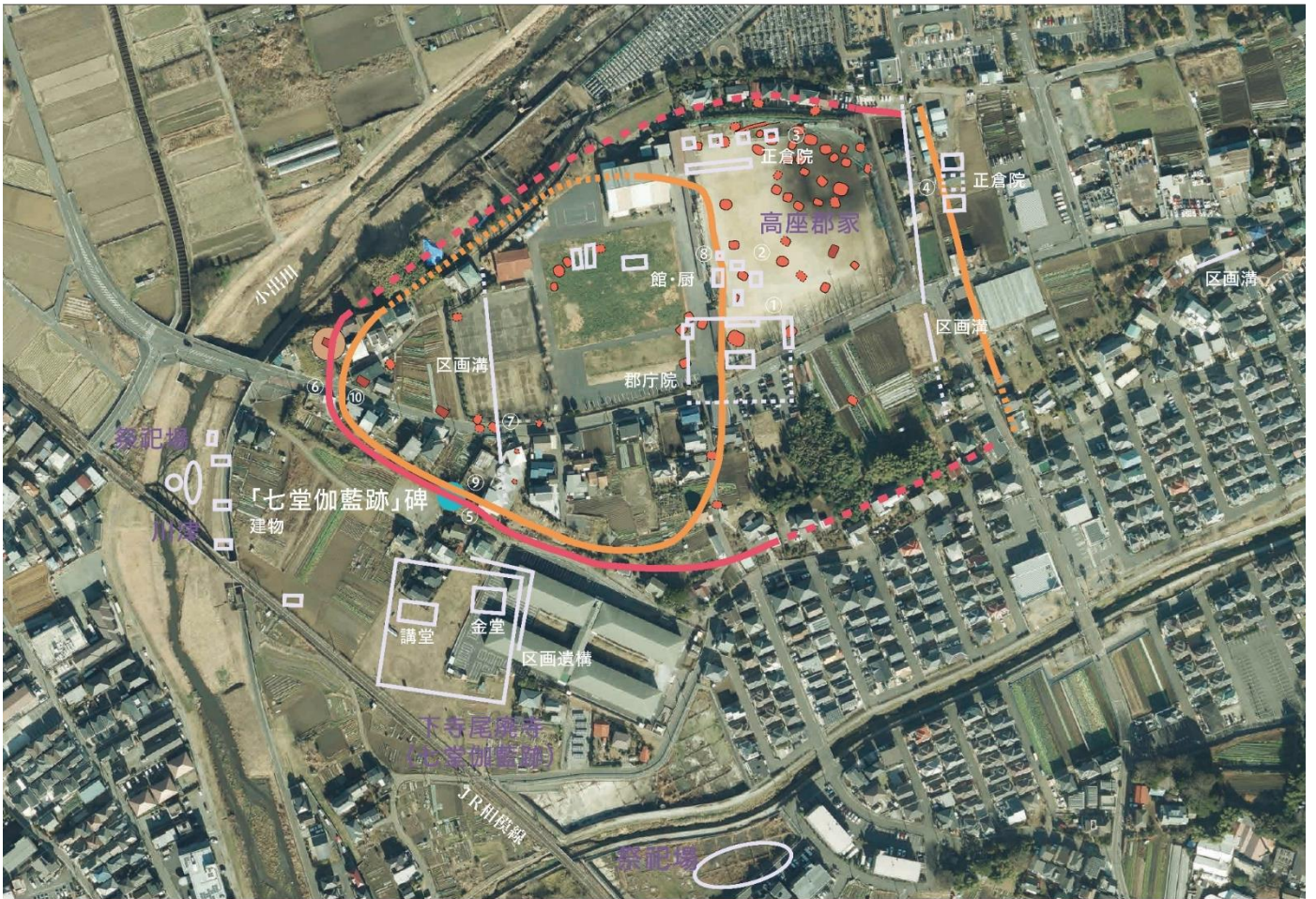
・下寺尾地域で初めて行われた発掘調査「西方貝塚」(縄文時代)

1963年に茅ヶ崎郷土会塩川健寿氏が岡本勇先生に貝塚らしきものがあると知らせ、同年11月に試掘調査したところ、貝塚を発見。翌年8月に立教大学考古学研究室と茅ヶ崎市教育委員会の共催で発掘調査実施。縄文時代前期(約5500年前)のヤマトシジミを主とする貝塚で、貝が捨てられた竪穴住居址が弥生時代の溝に壊されていることを確認。この溝が後の発掘調査により環濠であることが判明。

じょうもん
縄文
西方貝塚

やよい
弥生
下寺尾西方遺跡

こだい
古代
下寺尾官衙遺跡群



史跡として保護されているため、縄文時代の深さまで発掘することはほとんどありませんが、これまでに貝塚と同時期の住居址が複数見つっています。

県立茅ヶ崎北陵高校グラウンドが大規模に調査されたため、グラウンドに住居が集中しているように見えますが、まだ見つからない住居がたくさんあります。

廃寺では、講堂が何度も建て直されたことがわかっています。同じ時代の中でも何度も建物が作り直されています。

発掘調査された範囲は遺跡全体からすればまだごくわずかな範囲です。

- 西方貝塚
- 竪穴住居

- V字形環濠
- 逆台形環濠
- 竪穴住居

- (実線): 発掘調査によって確認された遺構による推定
- (破線): 推定

※ここでは2022年4月時点での調査結果を基に遺跡の全体像を想定しています。

発見された遺跡の重なりを示す図

(茅ヶ崎市博物館常設「下寺尾の重なる遺跡」の展示より)



下寺尾官衙遺跡群の景観（北西からの鳥瞰写真）



高座郡家北西部の建物址（合成した空撮写真）



下寺尾廃寺出土の瓦と二彩陶器



外側環濠（左から東部、南西部、西部）



竪穴住居址



内側環濠（左から南西部、西部）

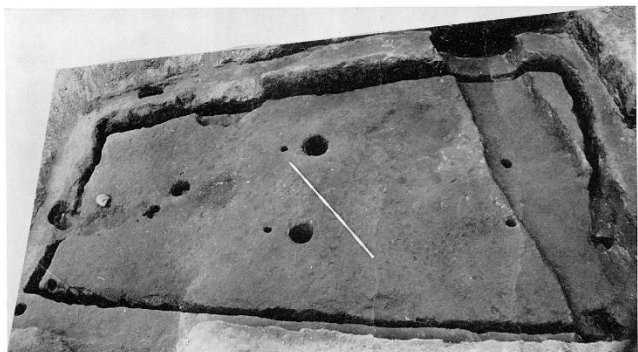


茅ヶ崎市内の貝塚位置模式図

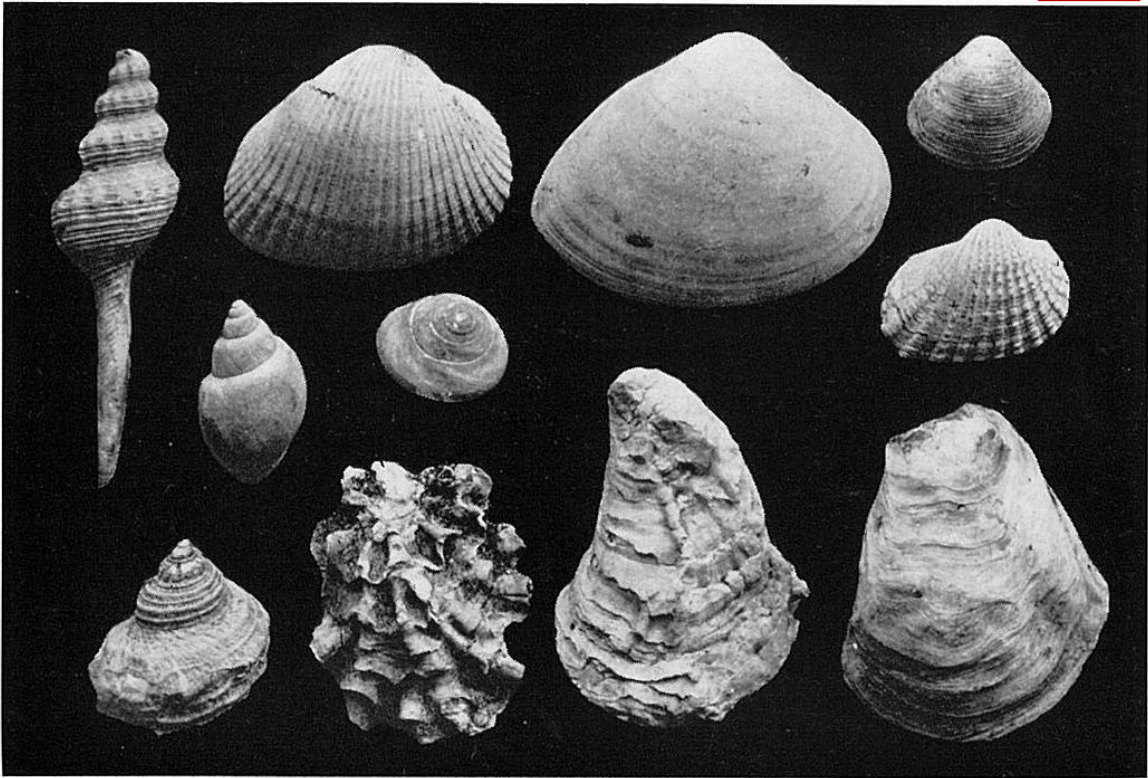
(茅ヶ崎市博物館基本展示「縄文の海」の展示より)



西方貝塚の貝層



貝層が発見された竪穴住居



西方貝塚出土の貝類



下寺尾西方遺跡周辺鳥瞰写真（北東から）